

## 第2次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン 2025年度事業計画

基本方針		基本施策		実施手法		推進主体	市の評価
1	協働による取組を進めます 市民、事業者との連携を強化し、事業者との取組を進めます	1-1 市民との連携による取組の推進		1-1-1	3R学習の充実	環境政策課	○
				1-1-2	担い手づくりに向けた取組の推進	環境政策課	◎
		1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進		1-2-1	飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進	環境政策課	○
				1-2-2	スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進	環境政策課	◎
		1-3 市民や事業者の主体的取組の支援		1-3-1	地域が行う取組の支援	環境政策課	△
				1-3-2	事業者が行う取組の支援	環境政策課	○
				1-3-3	各種情報ツールを活用した情報発信	環境政策課 ごみ収集課	○
基本方針		基本施策		取組施策		推進主体	市の評価
2	家庭系ごみの減量を進めます	2-1 生ごみの減量の推進	重点	2-1-1	生ごみの発生抑制	環境政策課	○
			重点	2-2-1	プラスチックごみの発生抑制	環境政策課	△
		2-2 プラスチックごみの減量の推進	重点	2-2-2	プラスチックごみの資源化の推進	環境政策課	△
			重点	2-3-1	リデュース・リユースの推進	環境政策課	○
		2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進		2-3-2	リサイクルの推進	環境政策課	△
2-4 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討		2-4-1	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	環境政策課	○		
3	事業系ごみの減量を進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	重点	3-1-1	適正排出に向けた取組の推進	環境政策課	○
				3-1-2	優良事例の公表・拡大	環境政策課	○
		3-2 事業系ごみの減量の促進		3-2-1	公共施設から排出される事業系ごみの削減	環境政策課	○
				3-2-2	事業系生ごみの削減	環境政策課	×
3-3 事業系ごみ処理手数料の見直し検討		3-3-1	事業系ごみ処理手数料の見直し検討	環境政策課	○		
4	環境に配慮した資源化施設を整備し、安全な処理に努めます	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	重点	4-1-1	環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営	循環型施設管理課	○
				4-1-2	生ごみのバイオガス化施設の整備・運営	循環型施設管理課	○
				4-1-3	資源化施設の整備	循環型施設整備課	△
		4-2 収集体制の整備		4-2-1	収集体制の見直し	ごみ収集課	△
4-3 資源の有効活用の推進	重点	4-3-1	資源化の拡大	環境政策課 循環型施設管理課	○		
5	社会的課題への対応を強化します	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化	重点	5-1-1	災害時等のごみ処理に関する計画の見直し	環境政策課	○
				5-1-2	災害時等の教育・訓練	環境政策課 ごみ収集課	○
				5-1-3	応援・受援体制の整備	環境政策課	◎
		5-2 超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応		5-2-1	高齢者等に対応した収集体制の検討	ごみ収集課	○
		5-3 不適正処理防止対策		5-3-1	不用品の違法回収防止対策の推進	環境政策課 ごみ収集課	○
				5-3-2	不法投棄防止対策の推進	ごみ収集課	○
				5-3-3	まちの美化の推進	環境共生課	◎
	5-3-4		持ち去り行為防止対策の推進	ごみ収集課	△		

基本方針	基本施策	重点	実施手法		協働による主な実施手法							
					1-1-1	1-1-2	1-2-1	1-2-2	1-3-1	1-3-2	1-3-3	
1	市民、事業者との連携を進めます	1-1 市民との連携による取組の推進	1-1-1	3R学習の充実								
			1-1-2	担い手づくりに向けた取組の推進								
		1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進	1-2-1	飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の実施								
			1-2-2	スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の実施								
		1-3 市民や事業者の主体的取組の支援	1-3-1	地域が行う取組の支援								
			1-3-2	事業者が行う取組の支援								
			1-3-3	各種情報ツールを活用した情報発信								
2	家庭系ごみの減量を進めます	2-1 生ごみの減量の推進	2-1-1	生ごみの発生抑制	○	○		○	○	○	○	
			2-2-1	プラスチックごみの発生抑制	○	○	○	○		○	○	
		2-2 プラスチックごみの減量の推進	2-2-2	プラスチックごみの資源化の推進	○	○			○		○	
			2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進	2-3-1	リデュース・リユースの推進	○	○	○	○	○	○	○
		2-3-2		リサイクルの推進	○	○	○	○	○	○	○	
		2-4	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	2-4-1	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討							
3	事業系ごみの減量を進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	3-1-1	適正排出に向けた取組の推進						○		
			3-1-2	優良事例の公表・拡大						○	○	
		3-2 事業系ごみの減量の促進	3-2-1	公共施設から排出される事業系ごみの削減							○	
			3-2-2	事業系生ごみの削減			○	○		○		
			3-2-3	事業系紙類の減量・資源化						○	○	
		3-3	事業系ごみ処理手数料の見直し検討	3-3-1	事業系ごみ処理手数料の見直し検討							
4	環境に配慮し、配正した資源安全な施設を整備を	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	4-1-1	環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営								
			4-1-2	生ごみのバイオガス化施設の整備・運営								
			4-1-3	資源化施設の整備								
		4-2	収集体制の整備	4-2-1	収集体制の見直し							
		4-3	資源の有効活用の推進	4-3-1	資源化の拡大							
5	社会的課題への対応強化	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応強化	5-1-1	災害時等のごみ処理に関する計画の見直し								
			5-1-2	災害時等の教育・訓練	○		○		○		○	
			5-1-3	応援・受援体制の整備								
		5-2	超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応	5-2-1	高齢者等に対応した収集体制の検討							
		5-3 不適正処理防止対策	5-3-1	不用品の違法回収防止対策の推進								○
			5-3-2	不法投棄防止対策の推進						○		○
			5-3-3	まちの美化の推進					○	○		○
5-3-4	持ち去り行為防止対策の推進							○		○		

基本施策
1-1 市民との連携による取組の推進

【取組施策】

1-1-1 3R学習の充実

【指標と目標値】

指標①	2025年度目標	2025年度実績	2025年度取組方針・内容
出前講座	80回	83回	保育園・幼稚園の出前講座は、啓発効果を高めるため保護者参観の実施条件を設け、申込件数が減少した分を町内会・自治会の出前講座や説明会に注力します。また、容器包装プラスチック全市収集開始に向けて効果的に周知できる内容に変更します。
イベント出展	30回	50回	容器包装プラスチック全市収集開始に向けて、効果的に周知できる内容で実施します。
主催イベント実施	1回	1回	容器包装プラスチック全市収集開始に向けて、効果的に周知できる内容をメインに実施します。
キャンペーン実施	14回	18回	季節や時期に合わせた内容のキャンペーンを年間を通じて実施します。
町田市バイオエネルギーセンターで実施されるイベントへの出展	3回	6回	事業者と協働して効果的なごみ減量・資源化の啓発を実施します。
オンライン講座	2回	1回	ごみ減量サポーター等に向けてオンラインで視聴できるよう講座を実施します。

審議会からの主な意見	市の対応
様々な属性にアプローチ出来ているのは素晴らしいと思います。後は各CP実施後(実施中)にアンケート調査が実施出来れば、次年度に向けた内容のブラッシュアップや効果測定が可能となるのではないのでしょうか。	イベント出展時のアンケートといたしましては、さくらまつりで小型充電式家電の処理についてや、南市民センターまつりで容器包装プラスチックの分別について実施したことがあり、周知啓発に活用いたしました。今後ごみの減量につながる調査としてアンケートを実施していきます。

【事業計画・総括】

2025年度の取組総括	<p><b>指標①【出前講座組】</b></p> <p>&lt;子ども向け出前講座の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年4月から町市内全域で開始される「容器包装プラスチック」の分別収集を主なテーマとして実施しました。</li> <li>・幼児向けには分別に関する紙芝居を行い、小学校向けには実物(容器包装プラスチック・製品プラスチック)を使用した分別クイズを授業に取り入れました。</li> <li>・使用済み小型充電式家電による火災予防啓発として、実際に排出された燃やせないごみの現物を使用し、適切な分別の仕方や重要性を伝えました。</li> <li>・中学校・高校向けには、容器包装プラスチックの分別や使い捨てプラスチック削減に関する講座を行いました。</li> <li>・保護者への啓発として、連絡アプリ「tetoru」や各園の専用アプリを活用して電子データで情報を配信し、紙資源の削減を図りました。</li> </ul> <p>&lt;町内会・自治会向け出前講座&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年4月開始の容器包装プラスチック分別収集をテーマに、実物を掲示したパネルを用いて具体的な例を挙げながら分別方法を説明しました。</li> </ul> <p>&lt;出前講座の実施実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校:30回(2,704名)</li> <li>・幼稚園・保育園:34回(3,472名)</li> <li>・学童保育:11回(1,092名)</li> <li>・町内会・自治会:6回(147名)</li> <li>・中学校:1回(20名)</li> <li>・高校:1回(140名)</li> </ul> <p><b>指標①【イベント出展】</b></p> <p>&lt;ごみ減量・分別周知活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量や、2026年4月開始の容器包装プラスチック分別収集の周知を目的として出展しました(合計18,400名)。</li> <li>・子ども向けにはスケルトンごみ収集車「みえるくん」による収集体験を行い、ごみの減量・分別の大切さを伝えました。大人向けには容器包装プラスチック分別収集のチラシ配布による周知を行いました。</li> </ul> <p><b>指標①【主催イベント実施】</b></p> <p>&lt;パイエネ君さんあーるまつり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月26日にマシンガンズ滝沢秀一氏を招いたイベントを開催し、133名が参加しました。</li> </ul> <p><b>指標①【キャンペーン実施】</b></p> <p>&lt;マイボトルキャンペーンの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FC町田ゼルビアのホームゲームにて計4回実施し、3,807名のサポーターに好評をいただきました。</li> <li>・10月の市民体力テスト(151名)、12月のこどもマラソン大会(281名)、ペスカドーラ町田のホームゲーム(343名)においてもキャンペーンを実施しました。</li> </ul> <p><b>指標①【町田市バイオエネルギーセンターで実施されるイベントへの出展】</b></p> <p>&lt;都立町田総合高校との協働出展&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の探求授業の一環として協働でイベント出展を行いました。生徒と共に、来場者へごみ減量や容器包装プラスチックの分別収集について来場者に周知を行いました(244名)。</li> </ul> <p><b>指標①【オンライン講座】</b></p> <p>&lt;動画配信と今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールコンポストの講習会をYouTubeで配信しました。</li> <li>・ごみ減量サポーター等向けのオンライン講座について広報課と調整しましたが、動画時間が長く市の公式YouTubeでの配信基準を満たさなかったため、実施を見送りました。</li> </ul>
-------------	---

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

1-1-2 担い手づくりに向けた取組の推進

【指標と目標値】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
ごみ減量サポーターの活動支援	5回	5回	ごみ減量サポーターがサポーターとしての活動内容について理解し、ごみの減量・資源化等の必要な情報を町内会・自治会内等で周知していただけるように働きかける必要があります。 ごみ減量サポーターの市民への認知度向上を図り、ごみ減量サポーターがより誇りをもって活動できるよう動機づけを図ります。また、容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、ごみ減量サポーターに分別収集に関する案内等の送付と周知依頼を行い、分別収集開始の市民周知の一助となるよう講じます。 容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、ごみ減量サポーターと連携して、町内会・自治会での説明会を実施し周知・啓発を行います。
町田市3R市民リーダーの活動支援	6回	16回	容器包装プラスチックの市全域での分別収集開始に向け、3R市民リーダー主体で周知方法の検討を行い、各種イベント等で周知します。

審議会からの主な意見	市の対応
ごみ減量サポーター研修会に、3R市民リーダーも参加できるといいと思います。	3R市民リーダーにも参加していただくようご案内いたします。

【事業計画・総括】

2025年度の取組総括	<p><b>指標①【ごみ減量サポーターの活動支援】</b></p> <p>&lt;全体連絡会および研修会の開催&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月4日に、委嘱式を兼ねた全体連絡会(111名)および「バイエネ君」の施設見学会を開催しました。</li> <li>・9月27日に、容器包装プラスチックの周知・啓発をテーマとした研修会を実施しました。これには3R市民リーダーや一般参加者を含む約400名が参加しました。</li> </ul> <p>&lt;周知チラシの掲示および回覧&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月に、容器包装プラスチックの周知チラシを町内会・自治会の掲示板へ貼付し、あわせて分別ガイドの回覧を行いました。</li> </ul> <p><b>指標①【町田市3R市民リーダーの活動支援】</b></p> <p>&lt;勉強会の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月29日に3R市民リーダー勉強会を行い、2026年4月から町田市内全域で開始される容器包装プラスチックの分別収集について理解を深めました。</li> </ul> <p>&lt;イベント出展による周知活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のイベントに出展し、3R市民リーダーが主体となって容器包装プラスチックの分別収集について市民への周知を行いました。</li> <li>* 6月1日: 春のひなた村まつり(ひなた村)</li> <li>* 6月8日: なかまちチャレンジフェスタ(町田シバヒロ)</li> <li>* 8月17日: キンダーパーティー(町田シバヒロ)</li> <li>* 8月24日: 南市民センターまつり</li> <li>* 8月30日: 3Rまなびフェスタ(バイエネ君)</li> <li>* 9月7日: フェスタなかまち(町田1小)</li> <li>* 10月26日: バイエネ君でさんあーるまつり</li> <li>* 11月1日: まち2フェス(サン旭町体育館)</li> <li>* 11月2日: グリーングッドマーケット(グランベリーパーク)</li> <li>* 11月9日: キラリ町田祭(原町田大通り)</li> <li>* 11月16日: ひなた村祭(ひなた村)</li> <li>* 11月29日: 原町田ふれあいまつり(町田2小)</li> <li>* 2月28日: まちだECOtoフェスタ(市庁舎)</li> <li>* 3月28日・3月29日: 町田さくらまつり(尾根緑道会場)</li> </ul>
-------------	---

【評価】

町田市の評価	◎
--------	---

基本施策			
1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進			

【取組施策】			
1-2-1 飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進			

【指標と目標値】			
指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開	6回	9回	引き続きリサイクル推進店と協働した効果的な食品ロス削減のキャンペーンや容器包装プラスチック分別回収に向けた周知等を行います。
食べきり協力店制度の認知	随時	随時	他自治体の取り組みを調査するとともに、新たに登録いただいた店舗を中心に市民の方々に認知していただく方法を検討します。

審議会からの主な意見	市の対応
協力店の実態調査(HP掲載事項との整合性)は年1回でも確認すべきかと。	10月の食品ロス削減月間に食べきり協力店へポスター掲示依頼をしています。その際に店舗に対し現状の聞き取りを行ってまいります。

【事業計画・総括】	
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開】</b>          &lt;容器包装プラスチックの分別収集周知&gt;          ・リサイクル推進店8店舗と協働して、2026年4月から町田市内全域で開始する容器包装プラスチックの分別収集についてキャンペーンを実施しました。計8回行い、合計で1,592名に周知しました。</p> <p><b>指標①【食べきり協力店制度の認知】</b>          &lt;協力店舗数拡大に向けた申請促進&gt;          ・食べきり協力店舗数拡大に向け、少量排出事業者登録の申込があった飲食店6店舗に申請を促しましたが、申請には至りませんでした。</p> <p><b>【その他】</b>          &lt;食品ロス削減啓発ポスターの掲示依頼&gt;          ・10月の「食品ロス削減月間」と、忘年会や新年会によって食品ロスが増える年末年始にあわせて、町田商工会議所、町田市商店会、市内公共施設、リサイクル推進店にポスターの掲示を依頼しました。合計455か所に依頼しました。</p>

【評価】	
町田市の評価	○

【取組施策】			
1-2-2 スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進			

【指標と目標値】			
指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
ホームタウンチームと連携した取組	8回	9回	引き続き古紙回収会を6回行い、マイボトルキャンペーンなどホームタウンチームと連携して取り組みます。
大学と連携した取組	2回	7回	若い世代に対するごみ減量意識の向上に向け、リチウムイオン電池や容器包装プラスチック等の分別の啓発について、連携して取り組みを進めていきます。学園祭に協働で出店するなど、行政の情報が届きづらい若い世代に、効果的な周知方法を検討します。

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【事業計画・総括】	
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【ホームタウンチームと連携した取組】</b>          &lt;FC町田ゼルビアとの連携&gt;          ・4月と5月に「FC町田ゼルビア古紙回収会」を実施しました。          ・6月に1回、8月に3回、FC町田ゼルビアのホームゲーム会場にて「マイボトルキャンペーン」を実施しました。サポーターの皆様から大変好評をいただき、合計3,807名に参加いただきました。          ・8月に協働イベントとして施設見学会を2回実施しました(合計51名)。</p> <p>&lt;パスカドーラ町田との連携&gt;          ・12月のホームゲーム最終戦において「マイボトルキャンペーン」を実施しました(合計343名)。</p> <p><b>指標①【大学と連携した取組】</b>          &lt;玉川大学との協働&gt;          ・学生がデザインした容器包装プラスチックの周知に関するチラシ、ボールペン、横断幕を作成しました。          ・ごみ袋に掲示するピクトグラムのデザインを学生に依頼し、作成しました。          ・学生と協働で学園祭や「ECOtoフェスタ」に出展し、容器包装プラスチックの周知活動を行いました。</p> <p>&lt;桜美林大学との協働&gt;          ・学生を対象とした学習会を5月21日(104名)と5月27日(83名)に分けて実施しました。「バイエネ君」の施設見学をはじめ、ごみの処理方法や3Rについて学習を行いました。</p>

【評価】	
町田市の評価	◎

基本施策
1-3 市民や事業者の主体的取組の支援

【取組施策】
1-3-1 地域が行う取組の支援

【指標と目標値】			
指標①	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
地域リサイクル広場の新規開催団体に向けた支援回数と、既存開催団体の継続的な開催に向けた支援回数	各2回(計4回)	各2回(計4回)	ごみ減量サポーターの活動やリサイクル広場のパンフレットを通じて、地域リサイクル広場の新規開催団体の募集を行います。また、既存開催団体の自主的な地域リサイクル広場の開催が引き続き円滑に運営出来るよう支援します。
生ごみ資源化団体の支援	見直し	情報収集	協定締結から年月が経過していることから、協定に基づく支援等について団体と話し合い、今後の制度や協定内容について検討します。

審議会からの主な意見	市の対応
現状では「情報を届ける事or発信する事自体が目的化してしまっている」印象が強い。目的→手段→成果という流れを構築した方が良いのではないのでしょうか。	今後とも、目的を意識した情報発信を行っていきます。情報発信を行った成果については、今後も総括で報告してまいります。

【事業計画・総括】
-----------

2025年度の取組総括	<p><b>指標①【地域リサイクル広場の新規開催団体に向けた支援】</b>          &lt;新規開催に向けた調整&gt;          ・7月のごみ減量サポーター全体連絡会で、地域リサイクル広場を開催している団体の活動をごみ減量サポーターの好事例として紹介しました。          ・9月に、新規に体験リサイクル広場の開催を希望する団体の申し出があり、今後実施に向けた調整を行いました。新規開催は来年度の見込みとなりました(藤の台団地自治会)。</p> <p><b>指標①【既存開催団体の継続的な開催】</b>          &lt;不定期開催団体への支援&gt;          ・地域リサイクル広場(不定期開催)の協定書を結んでいる10団体に対し、チラシの作成、開催にあたっての連絡調整、利用者の景品の調達、HPへの活動内容の掲載等の支援を行い、2025年度は合計で17回地域リサイクル広場(不定期開催)を開催いたしました。</p> <p>&lt;定期開催団体への支援&gt;          ・地域リサイクル広場(定期開催)の協定書を結んでいる団体に対して、消耗品の調達、チラシの作成、開催にあたっての連絡調整、利用者の景品の調達、HPへの活動状況の掲載の支援を行いました。協定書締結2団体は、それぞれ毎週日曜日と、毎月第3日曜日に地域リサイクル広場を開催いたしました。</p> <p><b>指標①【生ごみ資源化団体の支援】</b>          &lt;活動状況のヒアリング&gt;          ・現在、登録されている3団体についてヒアリングを行ったところ、2団体が生ごみ処理機を使用し堆肥を作成し活用する取組みを行い、1団体は活動休止中でした。</p>
-------------	---

【評価】	
町田市の評価	△

【取組施策】

1-3-2 事業者が行う取組の支援

【指標と目標値】

指標①	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
大規模事業所へのフードドライブの周知	25回	24回	引続き大規模事業所立入り時に、有用な情報を提供できるよう周知していきます。
事業所の優良事例及びCSRの周知	600回	741回	企業CSRについては、3R賞を受賞した団体の取り組みを周知するとともに、他に良い取り組みをしている事業者の情報を収集してSNSなどで周知します。

審議会からの主な意見	市の対応
現状では「情報を届ける事or発信する事自体が目的化してしまっている」印象が強いので、目的→手段→成果という流れを構築した方が良いのではないのでしょうか。	今後とも、目的を意識した情報発信を行っていきます。情報発信を行った成果については、今後も総括で報告してまいります。

【事業計画・総括】

2025年度の取組総括	<p><b>指標①【大規模事業所へのフードドライブ】</b>                      &lt;立入検査時の周知&gt;                      ・24事業者に対して、6月から9月に立入検査を行い、フードドライブの周知を行いました。</p> <p><b>指標①【事業所の優良事例及び周知】</b>                      &lt;講習会や説明会でのチラシ配布&gt;                      ・8月5日に開催された事業系一般廃棄物講習会で、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを配布しました。(47事業所48名出席)                      ・9月24日、2月25日、3月13日に開催された保健所生活衛生課主催の食品衛生実務講習会で、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを配布しました。(合計532名参加)                      ・10月30日に開催された許可業者説明会で、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを配布しました。(54業者55名出席)                      ・2024年度まちだ3R賞受賞事業所の取り組みをホームページや広報まちだ4月15日号で周知するとともに、今後の取り組みの参考として、事業系ごみの減量・資源化の取り組み優良事例をまとめたチラシを大規模事業所立入り時や少量排出事業者登録時(74回)に配布しました。</p> <p>&lt;広報媒体やポスターによるPR&gt;                      ・2024年度まちだ3R受賞事業者をPRするポスターを作成し、受賞事業所への配布や「2025年度まちだ3R賞」への申請を促すため、市内公共施設、商工会議所、社会福祉協議会へ掲示を依頼しました。                      ・2024年度まちだ3R賞受賞事業所の取り組み事例をX(旧Twitter)、Instagramで紹介しました。(10回)</p> <p><b>【その他】</b>                      &lt;受賞事業者との懇談会&gt;                      ・5月9日に2024年度まちだ3R賞受賞事業所と懇談会を実施したところ、受賞した10事業所中、6事業所の参加がありました。グループワーク形式で懇談会を行い、受賞後の反響や廃棄物の再資源化についてをテーマに活発な議論をいただき、その取組みを参考に食品リサイクルへの取組みやデジタルサイネージを活用したペーパーレス化を導入する事業所がありました。</p>
-------------	--

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

1-3-3 各種情報ツールを活用した情報発信

【指標と目標値】

指標	2025年度目標	2025年度実績	2025年度の取組方針・内容
SNS等による情報発信	360回	510回	これまでの周知内容に加えて、容器包装プラスチック収集の市全域化に関する情報を発信します。 市民の方々がごみの減量・資源化について、具体的な方法や身近な内容等、関心を持てるような内容の発信を行います。
まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」発行	2回	2回	市民の方々に「記事を読んでもらえること」を意識した紙面構成を図ります。 ごみの減量・資源化の記事に加え、その時々環境行政に応じた情報を伝えられるよう柔軟な紙面作成をいたします。

審議会からの主な意見	市の対応
SNSの利点は、情報が「素早く」「大勢に拡散する」ことであり、活用にあたっては、日々の啓蒙活動よりも、例えば緊急性が高く市民に幅広く周知すべきメッセージの発信といったものの方がより高い効果を発揮するのではないかと感じる。現段階ではSNSの特性を踏まえ、本事業におけるSNS活用の有用性を再検討すべきと考える。	ご指摘の通り、リアルタイムで素早く大勢に拡散できる内容を検討してまいります。

【事業計画・総括】

2025年度の取組総括	<p><b>指標①【SNS等による情報発信】</b>                      &lt;情報発信の内容と実績&gt;                      ・市民からの問い合わせが多い分別がわかりにくい品目のごみの出し方や、2026年4月から市全域で開始する容器包装プラスチック分別収集の啓発イベント開催情報などを発信しました。                      ・リチウムイオン電池による火災発生や悪天候時のごみの収集について、緊急性が高く幅広く周知する必要がある情報を適宜発信しました。(Instagram:249回、X:248回、ごみ分別アプリ:13回)                      ・下半期は容器包装プラスチック分別収集に関する情報を中心に、多くの市民に幅広く周知する必要がある内容について配信しました。</p> <p>*フォロワー数(3月31日現在)&gt;                      ・Instagram:604人                      ・X:715人</p> <p><b>指標①【まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」発行】</b>                      &lt;10月1日号の内容&gt;                      ・10月1日号を発行し、3R推進係主催イベントや3R推進月間・食品ロス削減月間のお知らせ、事業者の取組みとしてアグリハウスつるかわとジモティースポット町田を紹介しました。                      ・資源とごみの出し方について市民からの問い合わせランキングを掲載し、ごみの分別と資源化の周知を図りました。</p> <p>&lt;3月1日号の内容&gt;                      ・3月1日号を発行し、直前に迫った容器包装プラスチックの分別収集について、ごみ減量アイデア、ごみ減量サポーターや忠生小学校6年生の取り組みの紹介、川柳の募集を掲載しました。                      ・ジモティースポット町田の紹介やリサイクル推進店、SNSについての情報を掲載しました。</p>
-------------	--

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策
2-1 生ごみの減量の推進

【取組施策】
2-1-1 生ごみの発生抑制

【指標と目標値】						
指標①	食品ロスの削減を総合的に推進する取組					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	-	2回	2回	5回	7回	2回
指標②	補助金を申請した家庭用生ごみ処理機の利用台数(累計)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値	-	1,200台	1,400台	1,600台	2,100台	2,400台
実績値	773台	1,278台	1,525台	1,825台	2,123台	2,410台

審議会からの主な意見	市の対応
町田ECO toゴー・ラウンド!は多くの参加者があり楽しいイベントだったと思うが、町田市民の参加はどの程度だったのか。当日配布した「食品ロスダイアリー」をヒートしながら一般市民向けにホームページに掲載するなど検討できないか。	当該イベントは、町田市民以外へのシティプロモーションも兼ねたものでしたが、参加者の約10%が町田市民でした。(アンケート調査による) イベントで配布した「食品ロスダイアリー」については、権利の関係上ホームページでの公開ができませんが、当該冊子を基に新しく作成し公開するなど、「食品ロスダイアリー」の活用について、次期食品ロス削減推進計画の策定の際に検討いたします。

【事業計画・総括】
-----------

2025年度の事業計画	<p>①-1・家庭で発生した食品ロスの種類や量などを一定期間記録することで、家庭で発生する食品ロスの量を見える化し、食品ロスがなくなった場合のCO2削減量や捨ててしまった食材を購入するのに掛かった食費の計算ができる「食品ロス削減ダイアリー」を作成し配布いたします。</p> <p>①-1・これまで啓発が行き届いていない若年層に向けて、食品ロスの削減やプラスチックの資源循環等を啓発するイベントを実施します。</p> <p>①-1・引き続き、食品ロス削減について、バスでのデジタルサイネージでの広告を行います。</p> <p>①-2・家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度について、生ごみ処理機取扱店舗の情報を収集し、引き続き、周知協力店を増やしてPRを強化することで、家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度の利用を推進します。</p> <p>①-2・生ごみ処理機等購入補助制度利用者からいただいたアンケートの結果によると、購入者の多くが電動式を購入し、生ごみを乾燥・減量させて、燃やせるごみとして出しています。生ごみ処理で出た一次生成物を燃やせるごみに出さずに、市で回収及びたい肥化する方法を引き続き検討します。</p> <p>①-2・家庭用生ごみ処理機やダンボールコンポストでどのぐらいごみの減量になるか数値化し、引き続きホームページなどで公表します。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【食品ロスの削減を総合的に推進する取組】</b></p> <p>&lt;イベントや講座を通じた周知啓発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たまかんフェスタ(10月19日)」や「グリーングッドマーケット(11月3日)」のイベントにてブースを出展し「TABETE」の登録方法など、食品ロスに関するパネル展示やTABETEのダウンロードキャンペーンを行いました。ブースに来た方へ、食品ロス削減アプリ「TABETE」の周知や、レシビ・ダイアリーの配布、消費期限が近い災害用備蓄食品(ビスケット・飲料水)の提供を行いました。</li> <li>・2月28日に市庁舎で開催された「まちだECOtoフェスタ2026」では、レブラントホテルと協力し、余剰食品の販売や食品ロス削減への取組に関するパネル展示を実施しました。</li> <li>・2月・3月には、保健給食課の栄養士や中学校給食センターと協働し、食材の使い切りや食べ残しを減らす料理の工夫を伝える講座を計2回開催しました。</li> <li>・公共施設や市内飲食店に啓発ポスターを掲示し、広く意識啓発を図りました。</li> </ul> <p>&lt;計画策定と飲食店での食べ残し対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度から2030年度を期間とする「次期食品ロス削減推進計画」を策定し、関連部署の取組も含めて体系的な施策実施のための整理を行いました。</li> <li>・飲食店での食べ残し対策として、持ち帰り容器(mottECO)の導入に関する情報収集を実施した取組を第2次町田市食品ロス削減推進計画に新たに反映しました。</li> </ul> <p>&lt;フードドライブの拡充と回収実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブの市内での受付窓口拡充のため、6月から新たにベスカドーラ町田のホームゲームでの受付を開始しました。</li> <li>・SNS(Instagram・X各12回)や広報誌「ECOまちだ」でベスカドーラ町田のホームゲームでのフードドライブの開催周知を強化しました。</li> <li>・全窓口での合計回収量は820kgとなりました(2024年度実績:1,005kg)。</li> <li>・3月には公園緑地課を通じて指定管理者へ案内を行い、さらなるフードドライブの拠点拡大を推進しています。</li> </ul> <p><b>指標②【家庭用生ごみ処理機の補助金】</b></p> <p>&lt;補助制度の運用と改正&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度の購入費補助金は287件の申請を受け、8月に予算上限に達したため受付を終了しました。</li> <li>・より多くの市民が利用でき、環境負荷の低い非電気式生ごみ処理機の利用を促進するため、補助制度の改正を行いました。</li> <li>・補助金交付者を対象に生ごみ処理機等の使用状況のアンケートを実施し、減量効果などの結果をホームページで公表しました。</li> </ul> <p>&lt;生成物の回収実証実験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ処理機から発生する一次生成物の回収について関係者と協議を重ね、2026年度から「リサイクル広場」で回収の実証実験を開始することになりました。</li> </ul>

【評価】	
町田市の評価	○

基本施策
2-2 プラスチックごみの減量の推進

【取組施策】
2-2-1 プラスチックごみの発生抑制

【指標と目標値】						
指標①	使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	10回	13回	17回	20回
実績値	—	5回	5回	10回	9回	16回
指標②	マイボトルが利用できる店舗数(累計)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		32店	35店	40店	45店	50店
実績値	31店	31店	31店	29店	29店 (公共施設へのマイボ トル給水器設置を含 めると46か所)	24店 (公共施設へのマイボ トル給水器設置を含 めると42か所)

審議会からの主な意見	市の対応
マイボトル専用給水器の設置については芹が谷、忠生等の公園、それと忠生市民センター、文化交流センター、市民ホール等の公共施設に更なる拡充を希望します。	市内各部署へ設置の呼びかけを行い、今後も市内公共施設へのマイボトル専用給水器の拡充に努めてまいります。

【取組方針・総括】	
2025年度の事業計画	<p>①・引き続き使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信を行います。</p> <p>①・プラスチック製品を減らすため、関係機関を通じて、プラスチック製品を製造・販売する事業者等による自主回収や費用負担の仕組みの再構築等を関係省庁に対し要望してまいります。</p> <p>②・マイボトルを利用できる店舗については、マイボトルに提供いただける店舗だけでなく、給水スポットの情報提供も合わせて行い、マイボトルの利用促進につながる事業所等を周知してまいります。</p> <p>②・マイボトルの利用促進およびペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するため、マイボトル専用給水器の使用量および温室効果ガス削減量をホームページで公開し、給水器使用による削減効果の周知を図ります。</p> <p>②・市内各部署へ設置の呼びかけを行い、今後も市内公共施設へのマイボトル専用給水器の拡充に努めてまいります。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信】</b></p> <p>&lt;代替品の周知啓発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック製品の製造・販売事業者等による自主回収や費用負担の仕組みの再構築など、拡大生産者責任の強化について、全国都市清掃会議などの関係機関を通じて関係省庁へ要望を行いました。</li> <li>・FC町田ゼルビアのホームゲームで実施したマイボトルキャンペーンなど、プラスチック製品の代替品に関する情報をSNSで16回発信しました。</li> </ul> <p><b>指標②【マイボトルが利用できる店舗】</b></p> <p>&lt;専用給水器の設置拡大と利用実績の公表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センター（(仮称)子ども・子育て等サポートセンター複合施設）に給水器を新設し、市内公共施設への設置数は計18台となりました。</li> <li>・マイボトル利用促進の効果を周知するため、2024年度の使用量(約100,103リットル/500mlペットボトル約20万本分)および温室効果ガスの削減量を市ホームページで公開しました。</li> <li>・2025年度の使用量は、約95,266リットル(500mlペットボトル約19万本分)となりました。</li> <li>・設置場所のさらなる拡大に向け、2025年度に新設した場所の周知および新規設置の受付案内について、市内への呼びかけを行いました。</li> </ul> <p>&lt;マイボトル登録店舗の実態調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「マイボトルOK店」の新規登録はありませんでした。また、登録店の実態調査を行った結果、閉店などにより登録数は5店舗減少しました。</li> </ul>

【評価】	
町田市の評価	△

【取組施策】

2-2-2 プラスチックごみの資源化の推進

【指標と目標値】

指標	容器包装プラスチック分別協力率(収集地域)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		27%	30%	33%	36%	40%
実績値	24%	37%	36%	35%	35%	37.3%(推計値)

審議会からの主な意見	市の対応
プラスチックごみの資源化の市民の意識向上に向けて、様々な媒体を活用し、きめ細かく市民に周知して欲しい。高齢者や単身者に対しては、特に重点的に取り組んでください。	高齢者とながりのある民生委員や高齢者支援センターの職員向けに分別の説明を行い、民生委員や高齢者支援センターの職員を通じて高齢者に伝えていきます。また、単身者を含む若者世代に対して、興味をもってもらえるよう啓発動画等を作成します。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度に引き続き玉川大学との連携を継続し、学園祭に協働で出店するなど、行政の情報が届きづらい若い世代に、効果的な周知方法を検討します。</li> <li>・2026年度からの容器包装プラスチックの市全域での収集・資源化に向けて、町内会・自治会向け説明会や、市民センター等での説明会を開催いたします。また、「広報まちだ」や「環境広報紙ECOまちだ」、ごみ分別アプリ、SNSなどの媒体を通して、周知啓発を行います。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【容器包装プラスチック分別協力】</b></p> <p>&lt;説明会および展示会を通じた周知啓発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度からの市全域での収集・資源化開始に向け、町内会・自治会向け(75回)や市民センター等(24回)で説明会を開催し、計4,675名に周知を行いました(3月9日時点)。</li> <li>・3月23日から4月3日に市庁舎1階でブース展示を実施。動画放映や実物・模擬パールの展示、袋の配付と説明を行い、計391名(3月27日時点)に分別の啓発を行いました。</li> </ul> <p>&lt;対象世帯への資料配付と広報媒体の活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月からの収集開始に合わせ、新収集地域(約17万6,400世帯)へ分別お試し袋とチラシを、既に開始している地域(約3万5,000世帯)へ啓発チラシを配付しました。</li> <li>・「広報まちだ特集号」(2月)・「ECOまちだ」(6月・10月・2月)「ごみナクナーレ」(10月・3月)等の市発行誌のほか、町田ジャーナル(11月)やタウンニュース(12月)等のコミュニティ誌にも取り上げられました。</li> <li>・容器包装プラスチックの分別の手順をわかりやすく解説した動画を作成し、市ホームページでの公開や説明会等で活用しました。</li> </ul> <p>&lt;多様な市民・大学との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川大学との連携を継続し、学園祭への協働出店を行いました。</li> <li>・YouTube広告の掲載を通じて、若者向けの周知・啓発を実施しました。</li> <li>・国際交流センターや高齢者支援センター、民生委員等と協働し、外国人や高齢者に向けたチラシの作成・配布を行いました。</li> </ul> <p>&lt;特定プラスチック製品の拠点回収実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨てコンタクトレンズ空ケースおよび使用済みプラスチック製ペンの回収量が、前年度を上回りました。</li> <li>・コンタクトレンズ空ケース:340kg(2024年度:288kg)</li> <li>・プラスチック製ペン等:134kg(2024年度:104kg)</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	△
--------	---

基本施策
2-3 その他の家庭ごみの減量の推進

【取組施策】

2-3-1 リデュース・リユースの推進

【指標と目標値】

指標①	リデュースに関する情報提供回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	2回	4回	9回	22回	8回	20回
指標②	リユースにつながる取組の実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3回	4回	6回	8回	10回
実績値	3回	13回	14回	12回	7回	10回
指標③	粗大ごみのうち再生販売した重量					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75t	150t	100t	125t	150t
実績値	74t(5,767点)	57t(4,735点)	76t(6,119点)	83t(6,065点)	87t(6,324点)	74t(6,709点)

審議会からの主な意見	市の対応
粗大ごみ重量については、目標値がやや高すぎたという点は、次期計画の際に実際に即した検討を行う必要がある。また、ジモティー、おいくらなどの周知により、徐々に増加する可能性はある。	粗大ごみ重量の目標については、今後次期計画の際に適切に検討してまいります。 また、引き続きジモティーやおいくらなどの活用により、粗大ごみのリユースを推進してまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①-引き続き図書館の特集コーナーの設置やSNSを通して食品ロス削減に関する情報を発信します。</p> <p>②-（株）ジモティーと協働で開設のリユース拠点「ジモティースポット町田」を周知し、市民にリユース意識の啓発を行います。また、「まちエコフリーマーケット」実施の支援を引き続き行います。</p> <p>③-「ジモティースポット町田」の開設に伴う粗大ごみ減量の効果を検証していきます。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【リデュースに関する情報提供】</b>            &lt;情報発信の実績&gt;            ・鶴川第四小学校の「ごみを減らそう」の取組みや使い切り料理講座の周知など、リデュースに関する情報を計20回発信しました（Instagram 10回、X 10回）。</p> <p><b>指標②【リユースにつながる取組の実施回数】</b>            &lt;取組の実施と周知媒体&gt;            ・リユースにつながる取組を計10回実施しました。            ・周知媒体:Instagram、X、まちだ子育てサイト、市HP、ECOまちだ、ごみナクナーレ、ごみ減量アイデア、鶴川第4小学校・忠生小学校の取組み紹介。</p> <p><b>指標③【粗大ごみのうち再生販売】</b>            &lt;リユースショップまちエコでの実績&gt;            ・粗大ごみのうち、リユースショップまちエコで再生販売した重量は74tでした。</p> <p>&lt;ジモティースポット町田によるリユース促進&gt;            ・リユースショップまちエコ以外でのリユースの取組として、4月1日から株式会社ジモティーと協働し、高ヶ坂に「ジモティースポット町田」を開設しました。            ・これにより、粗大ごみを含む市内の不要品を約200t(約6万点)リユースしました。</p>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

2-3-2 リサイクルの推進						
指標①	雑がみの分別に関する情報提供回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	10回	13回	17回	20回
実績値	5回	7回	13回	7回	15回	85回
指標②	リサイクル広場来場者数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		31,000人	32,000人	33,000人	34,000人	36,000人
実績値	30,329人 (104,178kg)	19,250人 (84,025kg)	25,904人 (94,831kg)	24,367人 (100,679kg)	27,500人 (100,191kg)	27,750人 (91,500kg)
指標③	小売店独自の店頭回収の情報提供回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	—	0回	0回	2回	2回	2回

審議会からの主な意見	市の対応
「リサイクルの推進」の前段階としての発生抑制の記述が必要。	3Rについては、引き続き「リデュース」(発生抑制)、「リユース」(再利用)、「リサイクル」(再資源化)の順番で取り組んでいただくよう、周知啓発してまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・リサイクルの推進を図るため、引き続き、各種媒体を活用して周知していきます。</p> <p>②・リサイクル広場の来場者を増やすため、リサイクル広場パンフレットを新たに小中学校の出前講座で児童に配布し、リサイクル広場のより一層の周知を図ります。</p> <p>③・小売店独自の取組の情報収集方法について、リサイクル推進店に登録している店舗等に確認を行い、利用促進を含め市民に情報提供します。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【雑がみの分別に関する情報提供】</b>                      &lt;多様な媒体・機会を通じた周知啓発&gt;                      ・イベントでの周知(41回)                      ・ごみ減量サポーター209名への研修会での周知(1回)                      ・小学校出前講座(30回)および町内会・自治会出前講座(6回)での周知                      ・公共施設への「まるわかり本」の配布(1回)                      ・SNS(Instagram 3回、X 3回)による情報発信(6回)</p> <p><b>指標②【リサイクル広場】</b>                      &lt;来場実績と周知・利用促進の取組&gt;                      ・リサイクル広場の来場者数は27,750人でした。                      ・市民センター、図書館、子どもセンター等の公共施設へパンフレットを配布し、市民への周知を行いました。                      ・ごみ減量サポーター全体連絡会でリサイクル広場の説明を行い、町内会・自治会への周知を図りました。                      ・リサイクル広場でのフードドライブ実施に合わせ、12月に新パンフレットを作成。社会的意義を高めることで来場者数の増加を促進しました。</p> <p><b>指標③【小売店独自の店舗改修の情報提供】</b>                      &lt;廃食用油回収店舗の広報実績&gt;                      ・廃食用油の回収を行っている店舗の取り組みをSNS(Instagram 1回、X 1回)で情報発信しました。</p>

【評価】

町田市の評価	△
--------	---

基本施策
2-4 家庭系ごみ処理手数料に関する検証

【取組施策】
2-4-1 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討

【指標と目標値】						
指標①	検討の実施					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了
実績値	-	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【取組方針・総括】	
2025年度の事業計画	①・ごみの減量化と資源化率向上、ごみ処理費用負担の公平化のため、町田市では2005年より指定収集袋制による家庭系ごみの有料化を実施しています。社会情勢等を踏まえたごみ袋の価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行い、手数料の見直しの検討を一度完了します。
2025年度の取組総括	<b>指標①【検討の実施】</b> <周辺自治体の手数料比較と現状分析> ・多摩地域全26市が有料化を導入しており、2025年度(上半期)において料金改定を行った自治体はありません。 ・多摩地域26市の平均ごみ処理手数料は1.79円/ℓで、町田市の手数料1.6円/ℓは平均と比較して安価な設定となっています。 <手数料見直しの検討結果と今後の方針> ・ごみ量が年々順調に減少しており、ごみの発生抑制という目的を達成していること、および多摩地域平均よりも安い金額設定を維持できていることから、見直しの検討を完了しました。 ・日々変化する社会情勢を今後も注視し、必要に応じて適宜検討を行います。

【評価】	
町田市の評価	○

基本施策  
3-1 事業系ごみの適正排出の推進

【取組施策】  
3-1-1 適正排出に向けた取組の推進

【指標と目標値】

指標①	指導の回数(大規模事業所、搬入物検査に基づくもの等)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		120回	130回	130回	130回	130回
実績値	125回	94回	75回	337回	221回	186回

  

指標②	講習会の回数(排出事業者向け、許可業者向け)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	2回	2回	3回	6回	5回	5回

審議会からの主な意見	市の対応
指導の回数や講習会の回数は目標値を大幅に超えているので、町田市評価として◎となっているのと思うが、一方で、実際に実施した回数はその前の年度よりは減少している。回数を増やせばいいというものではないと考える一方で、実施回数が減ったことに関する妥当な理由を記載する必要があるのではないか。	2023年度からは、組織改正により新たに加わった少量排出事業者登録などの事業系ごみの業務での指導回数も加算しているため、実績値が大幅に増えています。前年度より指導回数が減少している点については、内容物検査による指導強化による減少と認識しております。講習会の回数については2023年度は廃棄物の出し方がわからない事業者からの依頼により、直接出向いて講習会を行ったケースがあったため回数が多くなっています。2024年度にはそのような講習会はありませんでした。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・大規模事業所の立入検査を25事業所予定しており、廃棄物処理や資源化の状況について現状確認を行います。また、清掃工場内において、毎日内容物検査を実施し、収集業者からのヒアリングで不適正排出が認められた事業所に対して、即日電話による指導や改善がみられない場合は適宜訪問指導を行います。</p> <p>②・内容物検査で不適正排出が認められた事業者に対して、事業系廃棄物の出し方を理解していただくために、直接訪問での廃棄物の出し方等について説明を行っていきます。また、一般廃棄物講習会や保健所主催の食品衛生実務講習会などにおいて、事業系ごみの適正排出に関する説明を行ってまいります。また、インターネット等を活用したオンラインでの事業所向け講習会の開催を引き続き検討していきます。</p> <p>③・一般廃棄物処理業許可業者を対象とした説明会において、処理業許可基準の再周知、及び事業系一般廃棄物の清掃工場適正搬入について説明を行います。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【指導(大規模事業所、搬入物検査に基づくもの等)】</b>                      &lt;適正排出に向けた指導の実施状況&gt;                      ・適正排出に向けた指導を計186回実施しました。                      * 大規模事業所24事業所に対して立入検査を実施し、ごみの排出状況や資源化等の取り組みについて問題がないことを確認しました。                      * 不適正排出する事業者に対し、訪問指導を16回、電話指導を8回実施しました。                      * 清掃工場での内容物検査結果に基づく排出元事業者への電話指導を64回実施しました。                      * 少量排出事業者登録時の排出指導(案内)を74回実施しました。</p> <p><b>指標②【講習会(排出事業者向け、許可業者向け)】</b>                      &lt;許可業者向け説明会の実施&gt;                      ・10月末に、許可業者を対象とした説明会を開催し、54業者が参加しました。処理業許可基準の再周知、および事業系一般廃棄物の清掃工場適正搬入について説明を行いました。</p> <p>&lt;廃棄物適正排出および食品ロス削減に関する講習会の開催&gt;                      ・事業系廃棄物の適正排出や食品ロス削減に関する講習会を計5回実施しました。                      * 保健所生活衛生課主催の食品衛生実務講習会(3回実施、計532名)                      * 事業所を対象とした事業系一般廃棄物講習会(47事業所、48名)                      * 許可業者講習会(54業者、55名)</p>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

3-1-2 優良事例の公表・拡大

【指標と目標値】

指標①	表彰した事業者数(累計)						
	年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			4者	10者	14者	24者	28者
実績値		2者	7者	11者	20者	30者	37者

審議会からの主な意見	市の対応
表彰制度は良いと思いますが、優良事例のうち、他事業者へも波及させる仕組みがあるとより良いのではないかと思います。 例)立ち入り時にその事業者なら導入出来る可能性のある優良事例を紹介する等	立入検査時に導入出来る可能性のある優良事例を紹介しています。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・引き続き大規模事業所立ち入り時などでまちだ3R賞について周知を行い、事業所にとって申請する事にインセンティブが感じられるような取組みを行っていきます。</p> <p>①・2025年度も各種広報誌への掲載などで周知を行い、市内の事業所の参考となるような効果的な取組みができるよう検討していきます。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【表彰した事業者】</b></p> <p>&lt;まちだ3R賞の選考および贈呈式の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度まちだ3R賞の申請・審査委員会(書面開催)を経て、7事業者の受賞が決定しました。受賞事業者への賞状贈呈式は、2月3日に市長公室で実施しました。</li> </ul> <p>&lt;周知啓発と受賞事業者の取組みPR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模事業者24箇所への立ち入り時に、まちだ3R賞についての周知を行いました。</li> <li>・受賞した事業所のインセンティブとなるよう、ホームページや各種広報誌で事業所の取組みを紹介しました。</li> <li>・2024年度まちだ3R賞受賞事業者をPRするポスターを作成し、受賞事業所への配付を行いました。また、2025年度への申請を促すため、市内公共施設、商工会議所、社会福祉協議会など計21ヶ所へ掲示を依頼しました。</li> </ul> <p>&lt;受賞事業者懇談会の開催と実施成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度受賞事業所6者と優良事例の情報を共有するため、グループワーク形式での懇談会を開催しました。</li> <li>・これまでの取組みに加え、まちだ3R賞のあり方について意見交換を行いました。受賞後の反響や廃棄物の再資源化についてのご意見をいただき、その取組みを参考に食品リサイクルへの着手やデジタルサイネージを活用したペーパーレス化を導入する事業所がありました。</li> </ul> <p>&lt;懇談会の目的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者間での情報共有の場を提供すること。</li> <li>・新しい取組みを進め、廃棄物の減量および資源化を推進すること。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策  
3-2 事業系ごみの減量の促進

【取組施策】

3-2-1 公共施設から排出される事業系ごみの削減

【指標と目標値】

指標①	市庁舎から排出される事業系ごみの削減率					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2%削減	4%削減	15%削減	15%削減	15%削減
実績値		1.9%削減	13.7%削減	13.6%削減	18.7%削減	18.4%削減

審議会からの主な意見	市の対応
市庁舎から排出されるごみは順調に減っているという点で評価できる。市庁舎において勤務する人に対してどの程度協力しているのか、あるいはごみの減量においてなにがネックとなっているのか、といった調査はしたことがあるか。	庁内の燃やせるごみ組成調査の結果では、付せんやOA紙等の資源化可能な紙類が4割を占めており、チャット等を活用したさらなるペーパーレス化の促進や分別の徹底が必要です。全職員を対象としたeラーニングによる研修を行っているため、その結果も活用して現状の把握に努めていきます。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減に向け、全職員を対象とした研修を定期的実施します。また、市庁舎から排出されるごみの調査・分析を行い、効果的な啓発を検討します。また、紙の使用量削減に向け、職員に対し啓発を行います。</p> <p>①・引き続き雑がみ等の分別方法の周知を行うとともに、家庭系ごみとの違いや自治体によって排出方法が異なることについて周知を行います。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【市庁舎から排出される事業系ごみの削減】</b></p> <p>&lt;燃やせるごみの組成調査と周知&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎内の課から排出された燃やせるごみ(事業系一般廃棄物)の組成調査を実施しました(8月19日、1月29日)。</li> <li>組成調査の結果から、依然として資源化できる紙類の混入が多かったことから、部長会議及び全庁掲示板にて、調査結果及び資源化できる紙類の紹介や排出方法を周知しました。</li> <li>・2025年度は2回の調査を行い、結果を比較したところ、資源化できる紙類の混入が減少し、適正排出の割合が上昇しました。定期的に調査を行い、排出したごみを見える化して結果を報告するとともに、分別・資源化の啓発を行うことで、適正排出の促進につながりました。</li> </ul> <p>参考：2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4t 廃棄物：11.3t 資源物：136.1t(溶解分78.15tを含む) 2025年度実績値 市庁舎 総ごみ量：120.3t 廃棄物：13.0t 資源物：107.3t(溶解分55.6tを含む)</p> <p>&lt;適正排出の徹底に向けた啓発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源化できる紙類以外にも、家庭ごみやプラスチックごみの混入が続いているため、以下の内容を併せて周知しました。</li> <li>* 個人で出したごみは家庭ごみに分類されるため、持ち帰って処理する必要があること</li> <li>* 業務上発生したプラスチックごみは産業廃棄物に分類されるため、分別の必要があること</li> <li>・全職員を対象としたeラーニングによる研修では、燃やせるごみに混入しているプラスチックごみの分別方法を周知しました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

3-2-2 事業系生ごみの削減

【指標と目標値】

指標①	フードバンクに関する情報提供団体数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3団体	3団体	3団体	4団体	5団体
実績値	2団体	4団体	1団体	2団体	1団体	1団体
指標②	食べきり協力店認定数(累計)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		10店	15店	20店	60店	100店
実績値	5店	8店	10店	16店	18店	18店

審議会からの主な意見	市の対応
HPの好事例集資料にあるように事業者からの聞き取り、お客様へのアンケート、利用者数など事例や数値で効果が見える形になるとより協力店は増えると思います。また成果が大きかった店舗や事業者を表彰するなど良いかもしれません。	認定店への聞き取りを行い、取組内容を公表してまいります。表彰制度については、いただいたご意見を参考に検討してまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・事業系ごみの削減対策として、フードバンクの活用を周知していましたが、品物によっては受入れしてもらえない物も出てきているので、ごみ削減に向けどのようなルートを活用していただくのが効果的なのか、事業所を交え検討していきます。</p> <p>②・新規登録店舗数を増やせるよう引続き関係部署と連携し情報収集していきます。</p> <p>②・事業系生ごみの削減に向け、食べ残しの持ち帰りの推進について、自治体等との連携を検討します。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【フードバンクに関する情報提供団体】</b>                      &lt;食品有効活用の状況&gt;                      ・大規模事業者立入り時にフードバンクの活用の周知を行いました。食堂を有する事業所などでは、利用者数の事前確認による仕入れ量の調整や、余った食材をおやつや翌日の朝食で提供するなど工夫し、必要以上のものを作らない、用意しない工夫をしていることが確認できました。また、防災備蓄品等も廃棄せずに職員への配付や利用者の食事として提供するなど、各事業所で工夫を凝らして廃棄せずに有効利用されていることが確認できました。</p> <p><b>指標②【食べきり協力店認定】</b>                      &lt;持ち帰り容器(mottECO)の導入推進と計画策定&gt;                      ・飲食店での食べ残しをなくすための取組として、持ち帰り容器の導入について、7月に開催されたイベントに参加し、情報収集しました。                      ・2025年度に策定した第2次町田市食品ロス削減推進計画において、持ち帰り容器(mottECO)の導入を新たに反映し、取組み内容として位置付けました。</p> <p>&lt;協力店拡大に向けた働きかけ&gt;                      ・食べきり協力店の店舗数拡大を目的として、少量排出事業者登録の申し込みの飲食店(6店舗)に申請を促しましたが、店舗数の拡大に至りませんでした。</p>

【評価】

町田市の評価	×
--------	---

【取組施策】

3-2-3 事業系紙類の減量・資源化

【指標と目標値】

指標	周知啓発活動の実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		10回	10回	10回	10回	10回
実績値	—	7回	10回	10回	10回	10回

審議会からの主な意見	市の対応
まずは中規模事業者の古紙回収について、検討を進めていただくとよいと考えます(小規模は次のステップで)。	中小規模事業者から排出される古紙について、回収から再資源化を行えるシステムの導入を検討します。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内事業所において、禁忌品とされていた使用済み紙コップや紙皿を資源化できる古紙再生事業所が複数あるため、これまで焼却処理されていた古紙類の資源化について、大規模事業所等への立入り検査時に周知していきます。</li> <li>紙類の回収方法については、場所や時間等の課題があるため継続して検討していきます。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【周知啓発活動の実施】</b></p> <p>&lt;周知啓発活動の実施機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模事業所立入り検査、②内容物検査、③少量排出事業者登録、④大規模事業所完了検査、⑤事業系廃棄物適正処理ルールブック、⑥事業者向け講座(食品衛生実務講習会)、⑦事業系一般廃棄物講習会、⑧ホームページ、⑨SNS、⑩事業系ごみ減量・資源化の取り組み優良事例集作成</li> </ul> <p>&lt;紙資源の資源化周知&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模事業者立入り時に紙の資源化について周知しました。周知とあわせて資源化状況の聞き取りを行ったところ、多くの事業所ではパソコンを活用した会議を行うなど、ペーパーレス化に取り組んでいることが確認できました。</li> </ul> <p>&lt;不適正排出への指導状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃工場へ搬入されるごみの中には未だに紙資源が多数混入しており、内容物検査の結果、不適正排出が認められた事業所に対し電話で資源化するよう指導を84回行いました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策  
3-3 事業系ごみ処理手数料に関する検証

【取組施策】

3-3-1 事業系ごみ処理手数料の見直し検討

【指標と目標値】

指標①						
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了
実績値	—	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	検討完了

審議会からの主な意見	市の対応
ごみ処理手数料については、26市平均は37.6円/kgですが、町田市に隣接した市と比較すると高くなっています。経費が高くなると事業者が市外へ流失する可能性もあるので慎重に検討していただきたい。	近隣自治体の状況や社会情勢などを踏まえながら、慎重に検討してまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	①・ごみの減量・資源化の推進を目的として、事業系ごみ処理手数料を2015年度に改定(値上げ)しています。社会情勢等を踏まえた価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行い、手数料の見直しの検討を一度完了します。
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【検討の実施】</b></p> <p>&lt;周辺自治体の手数料に関する情報収集&gt;                      ・周辺自治体の手数料の変動について情報収集を行いました。多摩26市では、2025年度(上半期)において料金改定を行った自治体はありません。そのため、26市平均の事業系ごみ処理手数料は37.6円/kgで変更はなく、町田市の手数料の35円/kgは、平均と比較してやや安くなっております。</p> <p>&lt;見直しの検討結果&gt;                      ・ごみ量が年々順調に減少しており、ごみの発生抑制の目的を達成していることに加え、多摩地域26市と比較して平均よりも安い金額の設定を保っていることから、見直しの検討を完了しました。日々社会情勢が変化しているため、今後も社会情勢を注視し、必要に応じて検討を行います。</p>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策
4-1 一般廃棄物処理施設の整備

【取組施策】  
4-1-1 環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営

【指標と目標値】						
指標①	発電効率					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)
実績値	約10% (既存焼却施設)	19.6%	20.86%	21%	21.28%	19.90%
指標②	燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75%以上	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上
実績値	—	硬質プラ:20.75% 小型家電:81.53%	硬質プラ:24.81% 小型家電:84.88%	硬質プラ:24.22% 小型家電:85.41%	硬質プラ:27.72% 小型家電:86.31%	硬質プラ:37.52% 小型家電:90.30%

審議会からの主な意見	市の対応
不適物の混入に対する対策強化が必要。	施設に搬入された不燃ごみの手選別人員を増員するなど、リチウムイオン電池対策を強化しています。また、正しい排出方法についての周知・啓発と併せて、燃やせないごみの収集時における破袋、不適物除去作業を実施してまいります。

【取組方針・総括】	
2025年度の事業計画	①・ごみ焼却施設の安定的な運営を継続できるようにモニタリングを行い、指標としている発電効率(17%以上)が達成されることを確認します。 ②・暫定的に目標とした硬質プラスチック選別精度30%の達成に向けて運営事業者と協議を行い、改善を進めます。
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【発電効率】</b>          &lt;ごみ焼却施設の整備体制について&gt;          ・ごみ焼却施設の安定稼働を維持するため、定期的な整備を実施しています。2025年10月に蒸気タービン発電機の定期整備を行いました。今後は、4年に1回行われる法定点検を受ける予定です。          ・安定した発電効率の達成に向け、引き続きモニタリングを継続します。</p> <p><b>指標②【燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度】</b>          &lt;硬質プラスチックの資源化&gt;          ・運営事業者および資源化業者と、硬質プラスチックの品質について確認を行いました。暫定的に目標としていた選別精度(30%)を達成しています。</p>

【評価】	
町田市の評価	○

【取組施策】

4-1-2 生ごみのバイオガス化施設の整備・運営

【指標と目標値】

指標①	発電量(熱利用率)					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt
実績値	—	393kWh/ごみt	418kWh/ごみt	354kWh/ごみt	—	354kWh/ごみt

審議会からの主な意見	市の対応
リチウムイオン電池による処理施設の火災防止について、検知システムの精度向上に向け装置メーカーと共同で進めてほしい。	「燃やせないごみ」を使った2回目の実証実験を2025年8月下旬に行います。検知システムの精度の向上に協力してまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・2023年11月4日に発生した火災でバイオガス化設備が停止したため、2025年4月～6月までは発電量が少ない状態です。</p> <p>①・復旧に向けた対応を運営事業者と進めていきます。</p> <p>①・復旧後のバイオガス化施設では、ごみ質の変動にかかわらず指標としている発電量が目標値を達成できるよう、運営事業者の施設運転状況等についてモニタリングを行います。目標値が達成できない場合、運営事業者と協議し、改善を促して目標値の達成を目指します。</p> <p>①・火災の原因となるリチウムイオン電池を使用した製品について、取り外しやすい製品設計・自主回収を行うことなどを国として事業者へ指導を行うよう、関係機関を通じて関係省庁へ要望を行っていきます。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【発電量(熱再利用率)】</b></p> <p>・2023年11月のバイオガス化施設前処理設備の火災後、バイオガス化施設でのごみ処理を停止していました。2025年3月に復旧工事が完了し、試運転期間を経て7月から処理を再開しており、発電量は目標値をクリアしました。</p>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

4-1-3 資源化施設の整備

【指標と目標値】

指標①		施設整備の進捗状況(相原地区)				
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		都市計画決定	事業認可・用地取得	用地取得	業者選定・用地取得	用地取得・ 自然環境調査
実績値	施設概要の検討	都市施設の告示	事業認可・ 用地取得開始	用地取得	用地交渉 業者選定準備	用地取得・ 自然環境調査
指標②		施設整備の進捗状況(上小山田地区)				
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		関係者等との調整	関係者等との調整	施設計画位置再検討・ 用地測量	施設計画位置再検討・ 用地測量	施設計画位置再検討・ 用地測量
実績値	施設概要の検討	施設概要の検討	施設概要の検討	関係部署との調整	関係部署及び 地元住民との調整	施設計画位置再検討

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	①・相原地区の資源ごみ処理施設の整備については、自然環境調査を行います。また、地区連絡会を適宜開催し、情報提供に努めます。 ②・上小山田地区の施設については、関係部署との協議を継続的に実施し、施設計画位置の決定に向けて再検討を行います。また、地区連絡会を適宜開催し、情報提供に努めます。
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【施設整備の進捗状況(相原地区)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相原地区については、用地取得対象地7件のうち残る3件との交渉を行い、2件を取得しました。また、自然環境調査や地区連絡会を実施しました。</li> </ul> <p><b>指標②【施設整備の進捗状況(上小山田地区)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上小山田地区については、施設整備にかかる工期の短縮が見込める施設位置の検討を行いました。2026年度の早い時期に地区連絡会で報告します。</li> </ul> <p>※地区連絡会とは、町田市資源循環型施設(ごみ処理施設)の整備にあたり、市民と協働して安全かつ安心な施設を整備・運営することを目的に設置された組織です。</p>

【評価】

町田市の評価	△
--------	---

基本施策
4-2 収集体制の整備

【取組施策】
4-2-1 収集体制の見直し

【指標と目標値】						
指標①	効率的な収集体制の構築					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	構築
実績値	—	情報収集	方針検討	プラスチック 収集方針決定	方針検討	2030年度までの 方針決定

審議会からの主な意見	市の対応
収集体制の見直しは、非常に大きな検討課題である。実際に実施が可能なのか、また、今後の町田市の人口構成や高齢化率の変化も踏まえて、しっかりと検討してほしい。	「週5日収集への変更」を含め、人手不足などの諸問題に対応する収集体制の構築に向け、引き続き検討を進めてまいります。

【取組方針・総括】	
2025年度の事業計画	<p>①・2026年4月の容器包装プラスチックの市全域での戸別収集開始に向けて、収集事業者の準備状況を確認しながら準備を進めます。また、容器包装プラスチックの指定収集袋の全市展開と合わせて、分別方法の案内をすすめていきます。</p> <p>①・人員不足が一層進むことが予想される中、収集ルートの見直しなど収集作業の効率化を進めることが急務であるため、「ごみ収集支援システム」を導入してデータ収集を始めます。</p> <p>①・収集から処理までの部内各担当者を集めた検討チームを立ち上げ、実務レベルで問題・課題を洗い出し、収集体制見直しの検討を進めます。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【効率的な収集体制の構築】</b></p> <p>&lt;容器包装プラスチックの収集体制と周知&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・容器包装プラスチックの市全域での戸別収集開始に向け、収集を委託する全ての事業者が、業務に必要な収集車両および収集作業員の準備と、収集ルートの構築を完了しました。</li> <li>・市民とともに資源化を推進するため、分別のルールや排出方法を記載した「資源とごみの収集カレンダー」を9月に全戸配布しました。</li> <li>・1月から3月にかけて、市内約3,700箇所の集積所に設置されている看板の張り替えを実施しました。</li> </ul> <p>&lt;システム導入の見直し&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごみ収集支援システム」については、相原地区ごみ資源化施設の整備状況に合わせるため、導入時期を2027年度に見直しました。</li> </ul> <p>&lt;廃棄物施策の方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年10月に、将来の収集体制を含めた『2030年度までの廃棄物施策の方針』を策定しました。</li> <li>・収集作業の安全性を確保するため、資源物収集車両に従事する人員を2名以上の体制にすることとしました。</li> <li>・週5日収集の実施については、社会情勢やコストとのバランスなどを考慮し、2032年度以降に開始することとしました。</li> </ul>

【評価】	
町田市の評価	△

基本施策
4-3 資源の有効活用の推進

【取組施策】

4-3-1 資源化の拡大

【指標と目標値】

指標①	調査研究の実施					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		実施	実施	実施	実施	実施
実績値	—	実施	実施	実施	実施	実施

審議会からの主な意見	市の対応
電動式生ごみ処理機については一次生成物の受入れについて検討すると同時に処理機そのものを助成対象とすべきかどうかについても考えてよいと思う。	電動式生ごみ処理機の一次生成物の受け入れについては、回収及び運搬方法や一次生成物の成分に課題があるため、引き続き検討を行います。また、電動式生ごみ処理機を引き続き補助対象としていくかということについては、他自治体の状況や市民への影響を考慮したうえで、今後検討を行ってまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・新たな資源化品目の設定を目指し、増加傾向にあるごみ種などの資源化に向けた調査研究を行います。</li> <li>①・引き続き、各家庭で使用されている家庭用生ごみ処理機から排出される一次生成物について、回収方法や受入れ先確保等の課題解決のため、調査・検討していきます。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【調査研究の実施】</b></p> <p>&lt;おむつの資源化に関する検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年12月22日に、使用済みおむつの資源化について事業者との意見交換を実施いたしました。超高齢社会の進展に伴い、おむつの資源化は非常に注目度が高い施策ですが、現時点では近隣にリサイクラー（再資源化施設）が存在しないことが大きな障壁となっています。実現に向けては、解決すべき課題が数多く存在することを改めて確認しました。</li> </ul> <p>&lt;一次生成物の回収実証実験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と打合せを行い、2026年度に家庭用生ごみ処理機から排出される一次生成物の回収に関する実証実験を行うことになりました。</li> </ul> <p>&lt;生ごみ処理機等購入費補助金制度の見直し&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気式を引き続き補助対象としつつ、非電気式の利用を促進するための制度の見直しを行いました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策
5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化

【取組施策】

5-1-1 災害時等のごみ処理に関する計画の見直し

【指標と目標値】

指標① 災害廃棄物処理計画及び職員行動マニュアルの見直し						
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	見直した職員行動マ ニュアルの検証	見直しの実施	見直しの実施
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施	見直した職員行動マ ニュアルの検証	見直しの実施	見直しの実施

  

指標② 事業継続計画の見直し						
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	—	—	—
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施			

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・町田市災害廃棄物処理計画の修正を踏まえて、職員行動マニュアルの修正を行います。</li> <li>①・災害廃棄物処理を想定した訓練を通じて、修正した職員行動マニュアルの検証を行います。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【災害廃棄物処理計画及び職員行動マニュアルの見直し】</b></p> <p>&lt;災害廃棄物処理マニュアルの修正&gt;(2024年11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度の「町田市災害廃棄物処理計画」の一部改訂に伴い、11月に「町田市災害廃棄物処理マニュアル」の修正を行いました。発災時に職員が迅速に参照し、適切な判断を下せるよう、災害発生からのタイムラインに沿った具体的な対応手順を整理しました。</li> </ul> <p>&lt;災害廃棄物処理訓練の実施&gt;(2025年1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正したマニュアルの内容に基づき、災害発生時の廃棄物処理に関する訓練を行いました。災害廃棄物処置に関わる2つの部署(環境資源部、道路部)の合同で講義形式で実施し、災害協定を締結している事業者の方にもご参加いただき、官民連携による処理体制の確認を図りました。</li> <li>・訓練を通じて得られた意見を基に、職員行動マニュアルの実効性についての確認を行いました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

5-1-2 災害時等の教育・訓練

【指標と目標値】

指標①	災害時の対応訓練の実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		1回	1回	1回	1回	1回
実績値		1回	1回	1回	2回	1回

審議会からの主な意見	市の対応
今後、南海トラフ地震など災害のリスクが増大するなかで、災害時の教育や訓練を充実して欲しい。	発災時に適正かつ円滑に災害廃棄物処理ができるよう、マニュアルの整備や教育訓練を進めてまいります。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・引き続き、災害廃棄物処理に関する理解を深め、部署内で知識や経験を定着させるために、仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を実施し、仮置場の開設手順や搬入の流れについて確認します。2024年度の訓練を通し、役割や業務について、より詳細な認識共有が必要であること等の課題が確認できたため、事前準備を強化し、災害廃棄物に関する協定を締結した事業者との連携を新たに取り入れることで、更に効果的な訓練をめざします。</p> <p>①・災害時の資源とごみの適正排出について、環境広報紙「ECOまちだ」、「資源とごみの収集カレンダー」やSNSに啓発記事を掲載します。また、市HPに掲載した災害時のごみの出し方について、適宜、内容の見直しを行います。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【災害時の対応訓練の実施】</b></p> <p>&lt;災害廃棄物処理訓練の実施&gt;(2026年1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年11月に修正を行った行動マニュアルの内容に基づき、災害発生時の廃棄物処理に関する訓練を実施しました。</li> <li>・例年の訓練参加者からは「仮置場のイメージがわいた」「当事者意識が持てた」という所感が得られる一方で、所属組織の役割の全体像や、マニュアル・防災システムの存在を把握していない職員が訓練参加者を含め多く見受けられるという実態がありました。</li> <li>・この状況を踏まえ、災害廃棄物処理に関わる環境資源部と道路部の2部署合同による講義形式の訓練を実施しました。各組織の役割を正しく認識し、災害対応への当事者意識を持つこと、特に災害廃棄物仮置場の開設・運営に関する知識や理解を深めることを目的としました。</li> <li>・本訓練には、災害協定を締結している事業者の方にもご参加いただきました。</li> </ul> <p>&lt;ごみの適正排出に関する啓発活動の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境広報紙「ECOまちだ」6月1日号や、「資源とごみの収集カレンダー」に啓発記事を掲載し、適正な排出方法について周知を図りました。</li> <li>・災害時における分別の必要性について、9月に全戸配布した「資源とごみの収集カレンダー」への掲載に加え、SNSを活用した情報発信を行いました。また、市ホームページについても、同様の内容の見直しを実施しました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

5-1-3 応援・受援体制の整備

【指標と目標値】

指標①	他自治体等との連携体制の構築					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	協定締結	拡充	拡充	拡充
実績値		情報収集	協定締結	拡充(29社)	拡充(29社・1団体)	拡充(7市追加)

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・これまでに協定締結をした事業者等との連携を深めるため、災害廃棄物処理に係る勉強会を実施します。</p> <p>①・災害廃棄物の収集運搬処理が可能な事業者の情報収集を行います。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【他自治体等との連携体制の構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害廃棄物の処理等に関する協定や覚書を締結した事業者との連携を強化するため、当該事業者の参加を得て、災害廃棄物処理を所管する2部署(環境資源部・道路部)による講義形式の講習会を開催いたしました。</li> <li>・基礎自治体ならではの視点に基づき、水平かつ対等な関係で圏域全体の「行政サービスの維持・向上」「地域コミュニティの活性化」「持続可能な成長・発展」等を目指す「8市連携市長会議」の構成8市(横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市、町田市)において、風水害等の発生時における災害廃棄物処理に関する相互支援協定を3月に締結いたしました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	◎
--------	---

基本施策
5-2 超高齢化社会の到来に伴うごみに関する問題への対応

【取組施策】

5-2-1 高齢者等に対応した収集体制の検討

【指標と目標値】

指標①	資源の戸別収集の検討					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討	方針検討	方針検討	検討継続

  

指標②	ふれあい収集事業の見直し					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討	方針検討	方針検討	検討継続

審議会からの主な意見	市の対応
高齢人口が増加する中でふれあい収集は他の自治体でも課題になっている。近隣の市との情報交換などを継続しながら担当部署以外との連携も探ってもらいたい。	今後高齢化が進展するなかで、どのように分別・資源化を推進するか検討する必要があります。今後も他自治体の取組を参考に、ふれあい収集以外の支援方法についても、今後検討していきます。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①②・資源物の戸別収集、利用者増加が続くふれあい収集には、大幅な増員が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年4月から容器包装プラスチックの市全域での戸別収集を開始するため、大幅に増員します。</li> <li>・人員不足による影響が出ている中で、収集事業を安定的に継続していくために、資源物の戸別収集、ふれあい収集については、収集体制の見直し(取組施策4-2-1)と一体的に見直しを検討します。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【資源の戸別収集の検討】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源の戸別収集については、容器包装プラスチックの分別収集開始による資源とごみ量の変化を注視し、その動向を見極めながら引き続き検討を進めることとしました。</li> </ul> <p><b>指標②【ふれあい収集事業の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい収集」を今後も安定して継続していくための方法について、以下の調査・検討を実施しました。</li> <li>&lt;多摩地域25市への実態調査&gt;(2025年6月実施)</li> <li>・多摩25市を対象に、各市の実施状況や問題・課題について調査を行い、当市の現状との比較・分析を行いました。</li> <li>&lt;庁内関係部門との意見交換&gt;(2025年7月実施)</li> <li>・高齢者の生活支援を所管する部門と意見交換の場を設けました。互いの人手不足の状況を共有するとともに、ふれあい収集の今後について情報の共有と協議を行いました。</li> </ul> <p><b>指標なし【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;廃棄物施策の方針策定&gt;</li> <li>・2025年10月に「2030年度までの廃棄物施策の方針」を定めました。収集運搬については、社会の趨勢や市民サービス、コストのバランスを踏まえた上で、まずは労働環境の改善を図ることとしました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

基本施策
5-3 不適正処理防止対策

【取組施策】

5-3-1 不用品の違法回収防止対策の推進

【指標と目標値】

指標①	指導体制の確立					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		体制の検討	体制の検討	体制の確立	体制の運用	体制の運用
実績値	—	体制の検討	体制の検討	体制の確立	体制の運用	体制の運用

  

指標②	違法回収利用の未然防止を図るための啓発回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	5回	5回	5回	5回
実績値	1回	5回	6回	5回	8回	5回

審議会からの主な意見	市の対応
不用品の違法回収防止対策については、「いつ・どこに現れるかわからない」からこそ、実際に暮らす市民の方の“目”が最大の力になると思います。「関係機関との連携」に加えて、市民との協働による情報提供ネットワークの構築も、今後の取組において重要ではないでしょうか。	不用品の違法回収は、苦情やトラブルなどの声が寄せられることが少なく、実態を把握することが困難です。違法行為であることを認識している方が少ないことが考えられ、違法行為であることを知ってもらうための啓発活動が必要です。市民と協働する取組は、非常に興味深いご提案です。次期計画策定の参考とさせていただきます。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・消費生活センターとの連携や東京都、他市との情報共有を行い、不用品回収業者に対し効果的な指導ができるよう、対応していく手法や業務体制を運用していきます。</p> <p>①・東京都やごみ収集課との連携による不用品回収業者に対してのパトロールや立入を実施して、違法回収業者利用の未然防止対策を継続して行っています。また、不用品回収業者はいつどこに現れるかわからないため、引続き連携を強化し体制を確立していきます。</p> <p>②・不用品の違法回収防止対策として、引き続きパトロールを実施します。加えて、無許可の不用品回収業者の回収が違法行為であることを啓発するため、SNSや町田市ごみ分別アプリを活用して、適宜情報発信していきます。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【指導体制の確立】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度から、不用品回収業者による違法な回収行為を防止するため、東京都との連携体制を確立し、情報の共有化を推進しています。あわせて、各家庭に投函されるチラシなどの情報収集を行うとともに、警察OBが在籍するごみ収集課との緊密な連携を図り、指導体制の強化に努めました。</li> </ul> <p><b>指標②【違法回収利用の未然防止を図るための啓発回数】</b></p> <p>&lt;不法投棄防止パトロールの実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄の発生を防ぐため、年間198回のパトロールを実施しました。この巡回は、違法な不用品回収業者の利用を未然に防ぐ対策も兼ねて行っています。</li> </ul> <p>&lt;SNSによる注意喚起&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の皆様が違法な不用品回収業者を利用することのないよう、SNSを通じて計5回の注意喚起を行い、適正な不用品処分の啓発に努めました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

5-3-2 不法投棄防止対策の推進

【指標と目標値】

指標①	不法投棄防止・抑止活動の実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		198回	176回	198回	198回	198回
実績値	148回	176回	198回	198回	198回	198回

審議会からの主な意見	市の対応
パトロールは労力を伴い非常に大変だと思うが、不法投棄されている場所は、放置しておくとも悪化する可能性も高いのでぜひとも続けてほしい。	再発の可能性が高い場所や、情報提供があった場所を追加するなど、パトロールコースは随時見直しています。今後も不法投棄対策として、有効と思われるパトロールを継続していきます。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	①・市民からの情報提供や相談などをふまえてパトロール時間や場所を見直し、監視カメラや啓発看板の不具合なども点検することで、不法投棄がされない環境を維持します。
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【不法投棄防止・抑止活動の実施】</b></p> <p>&lt;不法投棄を防止する環境の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民からの相談や情報提供を踏まえてパトロールの時間や場所を見直し、年間198回のパトロールを実施しました。これにより、年度目標を達成することができました。</li> <li>・不法投棄をさせない環境を整えるため、市民から情報提供があった場所を中心に、新たに42箇所(計72枚)の啓発看板を設置しました。</li> <li>・パトロールの実施と並行して、不具合のある看板の交換を行い、不法投棄を発生させない環境の維持に努めました。</li> </ul> <p>&lt;通報件数の実績と今後の取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パトロールを通じて不法投棄の防止と抑止に取り組んだ結果、2025年度末の通報件数は28件となり、2024年度末の37件から24.3%減少しました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	○
--------	---

【取組施策】

5-3-3 まちの美化の推進

【指標と目標値】

指標①	美化推進キャンペーン実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	20回	22回	22回	22回
実績値	4回	18回	27回	30回	35回	40回

審議会からの主な意見	市の対応
特になし	

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<p>①・美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等と協力して啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャンペーン」や、主に市の職員が市内各駅周辺にて啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャラバン」等により美化推進啓発活動を行います。</p> <p>①・より多くの方に美化活動を行ってもらえるよう美化推進キャンペーン以外の美化活動についても検討・実施します。</p> <p>①・ハスのんインスタグラムへの投稿や、市のホームページを活用し美化推進重点区域の周知等、情報発信を行います。</p>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【美化推進キャンペーン実施回数】</b></p> <p>・美化推進重点区域に指定した駅周辺の町内会や事業者等と連携して、地域清掃・美化啓発活動する「美化推進キャンペーン」の実施、職員が清掃・啓発活動する「美化推進キャラバン」の実施、5月には「ごみゼロデー」にあわせて早朝美化活動「あさピカin町田駅」を実施しました。これら計5回のイベントには64団体、延べ224名にご参加いただき、幅広い方々と協働してまちの美化活動を行うことができました。</p> <p>◎啓発活動の全体実績          &lt;美化推進キャンペーン&gt;(計5回)          ・美化推進重点区域に指定した駅周辺の町内会や事業者等と連携して地域清掃・美化啓発活動する美化推進キャンペーンを実施しました。</p> <p>    *早朝美化活動「あさピカin町田駅」:(5月14～16日)          *美化推進キャンペーン:成瀬(5月23日)、鶴川(6月24日)、多摩境(9月25日)、町田(1月24日)</p> <p>    ※南町田グランベリーパーク駅は雨天中止のため、職員による美化推進キャラバンを実施しました。</p> <p>&lt;美化推進キャラバン&gt;(計7回)          ・主に美化推進重点区域以外の駅周辺で、職員による地域清掃・美化啓発活動を実施しました。</p> <p>    *美化推進キャラバン:つくし野(4月23日)、すずかけ台(7月3日)、町田(8月23日)、玉川学園(9月24日)、南町田グランベリーパーク(10月26日)、相原(12月4日)、町田(2月5日)</p> <p>&lt;町田駅周辺巡回指導&gt;(計12回)          ・職員によるポイ捨て・路上喫煙防止に向けた町田駅周辺巡回指導を実施しました。</p> <p>    *町田駅周辺巡回指導:4月25日、5月22日、6月26日、7月24日、8月21日、9月19日、10月23日、11月20日、12月25日、1月22日、2月19日、3月19日</p> <p>&lt;SNSを活用した情報発信&gt;(計16回)          ・多くの方に美化意識の向上をしてもらえるようSNSを活用した情報発信を実施しました。</p> <p>    *4月22日:ごみゼロデー          *5月23日、7月3日:成瀬駅ごみゼロデー美化キャンペーン実施、結果報告          *6月4日、6月30日:鶴川駅キャンペーン実施、結果報告          *9月3日、9月29日:多摩境駅キャンペーン実施、結果報告          *10月1日、10月30日:南町田グランベリーパーク駅キャンペーン実施、キャラバン実施報告          *12月8日:相原駅キャラバン実施報告          *12月24日:年末ポイ捨て防止啓発          *1月6日、1月28日:町田駅キャンペーン実施、結果報告          *2月17日:町田駅キャラバン実施報告          *2月27日:路上喫煙禁止区域周知          *3月26日:年度末ポイ捨て防止啓発</p> <p>&lt;ごみゼロデーの周知啓発&gt;          ・ごみゼロデー周知のため、以下の媒体を利用した周知啓発を行いました。</p> <p>    *東急リバブル町田センター大型ビジョン1回(5月1～30日)          *町田市メール配信サービス1回(5月1日)          *神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージ1回(5月1～30日)</p>

【評価】

町田市の評価	◎
--------	---

【取組施策】

5-3-4 持ち去り行為防止対策の推進

【指標と目標値】

指標①	持ち去り防止活動の実施回数					
年度	2019年度 (基準年)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	6回	7回	8回	10回
実績値	3回	0回	3回	4回	5回	2回

審議会からの主な意見	市の対応
目標値を達成できた年度がない理由を検証すべきではないか。市民にとっては町田市によるパトロールは安心感にもつながると思う。	資源物の持ち去り件数が減少しているため、パトロールが効果を発揮していると認識しています。一方で、ご指摘の通り、目標値は達成できませんでした。次期計画では、施策の効果を測定するため、心ざわしい指標を検討します。

【取組方針・総括】

2025年度の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・今後も地域の方々と協働して持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりをすすめるために、市HPで合同パトロール実施の相談についてお知らせしていきます。</li> <li>①・職員によるパトロールを引き続き実施し、持ち去り行為を抑止します。</li> <li>①・持ち去り行為を目撃した場合について、警察へ通報するとともに市へ情報提供いただくことを、市HPやSNSで繰り返しお知らせします。</li> </ul>
2025年度の取組総括	<p><b>指標①【持ち去り行為防止対策の推進について】</b></p> <p>&lt;持ち去り行為防止の対策について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、町田警察署、市の合同で資源物持ち去り防止活動の合同パトロールを2回行いました。町内会・自治会からの申し込みが少なく、目標を下回る結果になりました。</li> <li>・持ち去り行為の防止に向けて「不法投棄防止対策の推進」(取組施策5-3-2)と合わせて、市職員によるパトロールを実施しました。また、市HPやSNSでも注意喚起しました。</li> </ul> <p>&lt;通報件数の実績について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうした取り組みの結果、資源物持ち去りの通報件数は、本取組施策を策定した2019年度は年間40件でしたが、2024年度は5件で、2025年度は1件となりました。</li> </ul>

【評価】

町田市の評価	△
--------	---